

志賀 櫻『タックス・ヘイブンー逃げていく税金』

岩波新書 2013年

グループ発表の総括

1. タックス・ヘイブンは高額所得者が租税回避をするために使われる。
2. 椰子の実のなる島々だけではなく、群小国(スイス、ルクセンブルクなど)のオフショア・センターや、ニューヨークやロンドンにも存在すると言われている。
3. 本書に詳しくは書かれていないが、タックス・ヘイブンのリストアップは2000年に初めて行われ、以来監視が続いている。
4. タックス・ヘイブンを持つ地域はまともな税制がない。また、秘匿性が非常に高いためタックス・ヘイブンの地域を経由した資金は行き先が全くわからなくなってしまう。そのためテロや犯罪の資金とされることもある。
5. 本書に詳しくは書かれていないが、世界GDPの10%~30%が租税回避に使われているのではないかとされている。
6. 高所得者が払うべき税金を払わないことで、低所得者と高所得者間での格差が広がり、社会保障が上手く作用せず、低所得者への負担が増大する。
7. タックス・ヘイブンが存在することによってジニ係数がどんどん0から離れていき、格差が拡大している。
8. タックス・ヘイブンは不透明度が非常に高いことや、富裕層からの何らかの圧力で情報規制がされている事もあると考えられている。
9. タックス・ヘイブンはあくまで租税回避行為であり、脱税との線引きが難しいために逮捕するのは難しい。
10. タックス・ヘイブンの実態について多くの人を知り、今の社会の問題の在処を正しく理解することが大切である。

評価・見解

タックス・ヘイブンはケイマン諸島やヴァージン諸島などの島国に存在するものだと思っていたが、実際に規模の大きく厄介なものはニューヨークやロンドンのオフショア・センターに存在するという事実を知ることができた。また、タックス・ヘイブンは意図的な隠蔽によるものであるために秘匿性が高いことや、タックス・ヘイブンのある国が協力が消極的であることが発見を困難なものにしている。

我々にできることは、タックス・ヘイブンというものの存在を知り、正しく問題の在処を共有し、世界全体の問題であるという自覚を持つことに尽きる。